

楽天USリート・トリプルエンジン・プラス (リアル)毎月分配型

追加型投信/海外/不動産投信

交付運用報告書

(作成対象期間 2019年12月18日～2020年6月17日)

第48期(決算日 2020年1月17日) 第51期(決算日 2020年4月17日)
第49期(決算日 2020年2月17日) 第52期(決算日 2020年5月18日)
第50期(決算日 2020年3月17日) 第53期(決算日 2020年6月17日)

受益者の皆様へ

平素は当ファンドにご投資いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、当ファンドは、このたび上記決算を行いました。当ファンドは、主として①米国リートへの実質的な投資、②「リートのカバード・コール戦略」、③「ブラジル・リアル戦略」、④「米ドル/円のカバード・コール戦略」という、4つの収益の源泉を反映するケイマン籍円建て外国投資信託に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。ここに当期間の運用状況につきまして、ご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

楽天投信投資顧問株式会社

<https://www.rakuten-toushin.co.jp/>

東京都港区南青山二丁目6番21号

本資料(交付運用報告書)の記載内容のお問い合わせ先

TEL: 03-6432-7746

受付時間: 営業日の午前9時から午後5時まで

※お客様のお取引内容等につきましては販売会社にお問い合わせください。

Rakuten 楽天投信投資顧問

当作成期末	
基準価額	2,309円
純資産総額	1,952百万円
騰落率	△36.0%
分配金合計	300円

(注)騰落率は分配金(税込)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記ホームページアドレスにアクセス

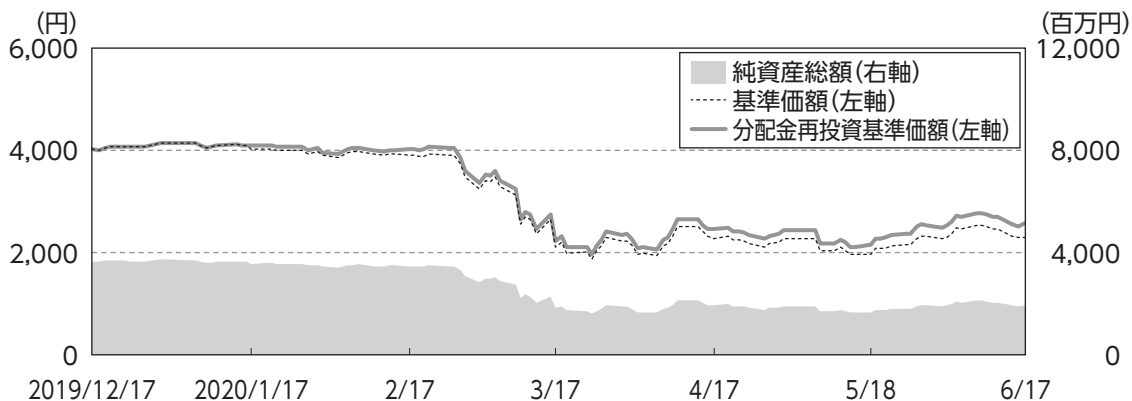
⇒「基準価額一覧」から当該ファンドを選択

⇒「運用報告書(全体版)」を選択し、閲覧およびダウンロード

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

運用経過の説明

1 基準価額等の推移



第48期首：4,024円

第53期末：2,309円 (既払分配金300円)

騰落率：△36.0% (分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額を起点として指数化しています。

2 基準価額の主な変動要因

当作成期間における分配金再投資基準価額は大幅に下落しました。主な要因は以下の通りです。

米国リートETF要因

米国リートETFを保有するとともに、当該ETFを対象とするコール・オプションを売却した投資効果を楽しむカバード・コール戦略では、2月後半以降の米国リートETFの急落を受けてマイナス寄与が膨らみました。米国リートETFの調整とともに、価格変動性が大幅に上昇するなか、コール・オプションの売却により得られるオプション・プレミアムが拡大したものの、米国リートETFの急速な下落分を埋め合わせるには至りませんでした。

ブラジル・リアル戦略要因

ブラジル・リアルが対円で大きく調整し、基準価額下落の主因となりました。ブラジル・リアル／円の金利差相当を収益化する戦略は引き続き着実に収益を積み上げたものの、ブラジルの金利低下により金利差が縮小したため、当該戦略のプラス寄与は従来と比べて抑制されました。

米ドル／円のカバード・コール戦略要因

円に対する米ドルのコール・オプションの売却によるオプション・プレミアムからの収益は堅調だったものの、3月前半の急速な円高進行により基準価額が大きく下押しされたことから、米ドル／円のカバード・コール戦略全体ではマイナス寄与となりました。

3 1万口当たりの費用明細

項 目	当作成期		項 目 の 概 要
	2019年12月18日～2020年6月17日		
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	21円 (10) (10) (1)	0.676% (0.330) (0.330) (0.016)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は3,048円です。 ・委託した資金の運用の対価 ・購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 ・運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (投資信託証券)	0 (0)	0.010 (0.010)	(b) 売買委託手数料＝ $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税	－	－	(c) 有価証券取引税＝ $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (印刷費用) (その他)	2 (－) (0) (1) (0)	0.058 (－) (0.015) (0.033) (0.010)	(d) その他費用＝ $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ ・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・印刷費用は、有価証券届出書、目論見書、運用報告書等の作成、印刷および提出等に係る費用 ・その他は、金銭信託への預入金額に対する手数料、その他投資信託財産の運営にかかる費用等
合 計	23	0.744	

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

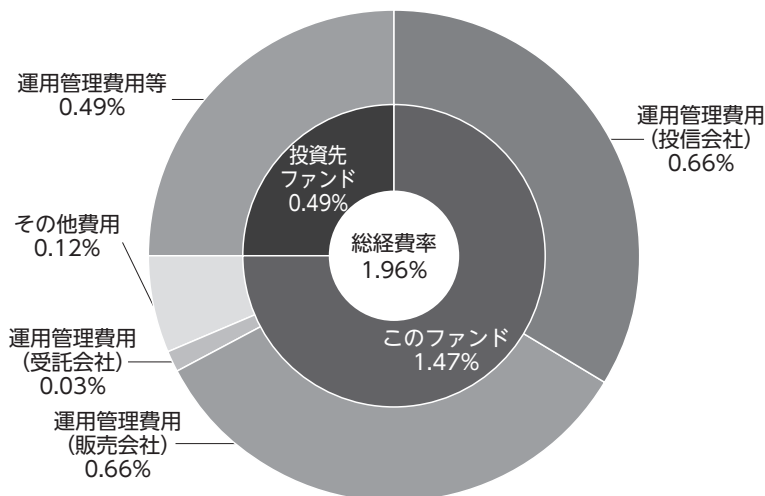
(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注5) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く)が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入ファンドの概要」に表示することとしております。

■（参考情報）総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.96%です。



総経費率 (①+②)	1.96%
①このファンドの費用の比率	1.47%
②投資先ファンドの運用管理費用等の比率	0.49%

(注1) このファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドまたはマザーファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）です。

(注5) このファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

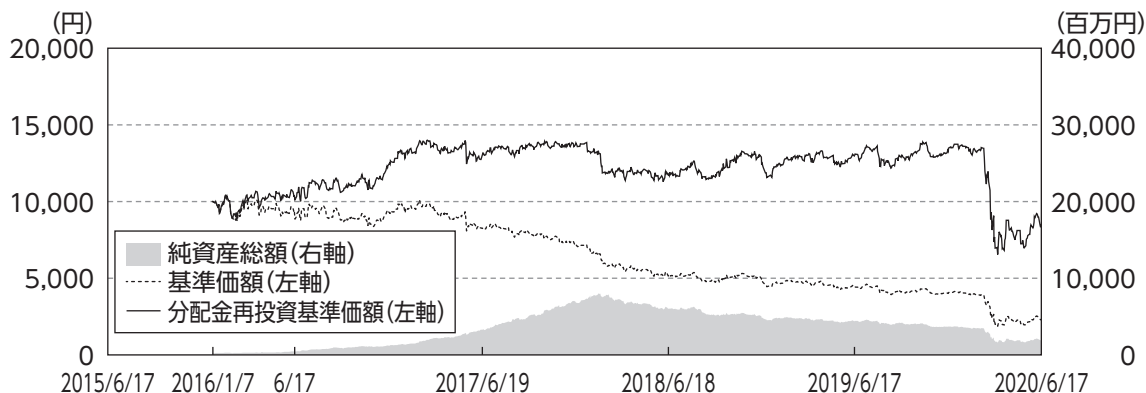
(注6) このファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 投資先ファンドについては、運用会社等より入手した概算値を使用している場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

4 最近5年間の基準価額等の推移

(2015年6月17日～2020年6月17日)



	2016年1月7日 設定日	2016年6月17日 決算日	2017年6月19日 決算日	2018年6月18日 決算日	2019年6月17日 決算日	2020年6月17日 決算日
基準価額 (円)	10,000	8,851	8,234	5,138	4,385	2,309
期間分配金合計 (税込) (円)	—	1,250	3,000	2,500	1,250	780
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	1.2	29.1	△10.1	10.4	△34.2
純資産総額 (百万円)	242	447	3,282	5,985	4,384	1,952

(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 当ファンドの運用方針に対応する適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

(注4) 分配金再投資基準価額は、2016年1月7日の基準価額を起点として指数化しています。

(注5) 設定日の基準価額には当初設定価額を、純資産総額には当初設定元本を用いています。

5 投資環境

●米国リート市場

当作成期間の米国リート市場は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて期中に大きく調整し、その後下落幅を縮小する展開となったものの、前作成期末比で下落しました。

期初から2020年2月中旬頃にかけては、米中貿易協議における第一段階の合意を受けた不透明感の後退やFRB(米連邦準備制度理事会)による緩和的な金融政策などを背景とした米長期金利の低下(※)などに支えられ、堅調な展開となりました。2020年1月後半以降、中国における新型コロナウイルスの感染拡大が報道されたものの、米国経済への影響は軽微との見方が強く、米国リート市場への影響は当初は限定的なものになりました。しかし、米国でも新型コロナウイルスの感染が広がり景気後退懸念が高まると、経済活動自粛の影響を強く受ける小売関連セクターやホテル・セクターなどが下落を主導するカタチで、米国リート市場は3月中旬頃にかけて大幅に調整する展開となりました。3月中旬以降は、FRBや政府による政策対応が迅速かつ大規模であったことに加え、4月以降には新型コロナウイルスの感染ペースに減速の兆しが見られ、全米各州で段階的に経済活動を再開する動きが広がったことなどが好感され、期末にかけて下げ幅を縮小する展開となりました。

※米国リート市場の参加者には利回り重視の投資家が多く、米長期金利の水準はリートの配当利回りと比較され、リートの相対的な投資妙味を判断する重要な材料となっています。長期金利の上昇は通常、リートの利回り面での相対的な魅力を低下させる要因として、逆に長期金利の低下はリートの利回り面での相対的な魅力を向上させる要因として、それぞれ認識される傾向があります。

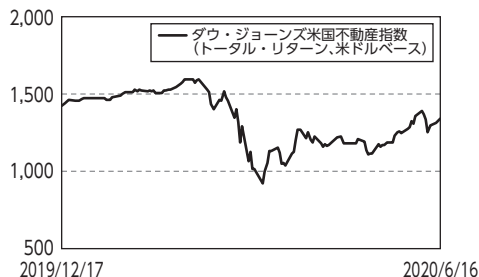
●為替市場

ブラジル・リアル相場

当作成期間のブラジル・リアルは、対米ドル、対円とともに大きく下落しました。

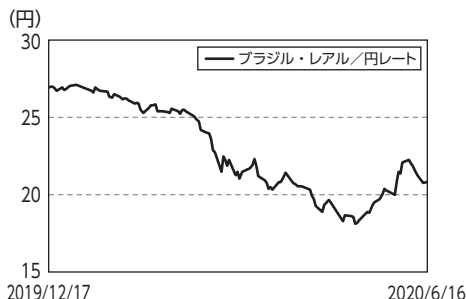
ブラジル・リアルは期初から2020年5月中旬まで、一貫して下落基調が続きました。

期初から2020年2月にかけては、中国における新型コロナウイルスの感染拡大に伴う同国の景気減速への警戒が強まるなか、ブラジルにとって最大の貿易相手国である中国の資源需要の減退が懸念され、ブラジル・リアルに下押し圧力がかかりました。3月以降は、新型コロナウイルスの感染が欧米をはじめ中国以外の国・地域で急拡大し、各国政



(出所)ブルームバーグのデータ等を基に楽天投信投資顧問にて作成

※ファンドの基準価額への反映を考慮し、作成期間を1営業日前にずらして作成しております。



(出所)ブルームバーグのデータ等を基に楽天投信投資顧問にて作成

※ファンドの基準価額への反映を考慮し、作成期間を1営業日前にずらして作成しております。

府が渡航制限や国境閉鎖、外出禁止措置などの感染防止策を強化したことから、世界的に経済活動が著しく停滞しました。これを受けて、グローバル規模で景気後退が急速に進むとの懸念が一気に強まり、投資家のリスク回避姿勢が極端に高まったことから、株式をはじめリスク資産全般で価格が急落したほか、投資家のリスク選好姿勢との感応度が高いブラジル・リアルへの売り圧力も強まり、加速度的にブラジル・リアル安が進む展開となりました。また、景気後退による需要減とOPECプラス(石油輸出国機構とロシアなど非加盟の主要産油国で構成)での原油減産協議の決裂を受けた供給増への懸念から、原油価格が急落を続けたことも、海底油田の開発で石油の純輸出国となったブラジルの通貨売りに拍車をかけました。

新型コロナウイルスの感染はブラジル国内でも急速に広がり、5月には国内累計感染者数が米国に次いで世界で2番目の規模になるなど、悪化する国内の感染状況もブラジル・リアル売り材料となったほか、減速する国内経済と低位で推移するインフレ率を背景に、ブラジル中央銀行が利下げを続けたことも、金利面から見たブラジル・リアルの投資妙味を減退させる結果となり、ブラジル・リアルの下落圧力につながりました。

なお、5月以降は、中国や欧米で経済活動の再開が進むなかで、資源需要の回復期待から、2020年3月に急落し歴史的な低水準で推移していた原油価格が反転したほか、ブラジルの主要輸出品目の一つである鉄鉱石価格が上昇するなど、資源価格の持ち直しが好感され、代表的な資源国通貨であるブラジル・リアルの反発につながったものの、期末時点では、期初からの大幅な下落分の3割程度を埋め合わせるにとどまりました。

米ドル／円相場

当作成期間の米ドル／円相場は、前作成期末と当作成期末との比較ではやや円高に振れた水準となりましたが、2020年2月後半から3月にかけては、大幅な円高と急速な円安への反転が見られました。

米ドル／円相場は、2020年2月中旬までは揉み合う推移が続き、米国の主要株価指数が史上最高値更新を続けた2月下旬にかけては一時1米ドル＝112円台まで円安が進みました。その後、2月下旬から3月上旬にかけては、日米で新型コロナウイルスの感染拡大が続き両国の株価が急落するなか、それまでの米ドル買いのポジションを巻き戻す動きが強まったことから、一時1米ドル＝101円台まで大幅に円高



(出所)ブルームバーグのデータ等を基に楽天投信投資顧問にて作成

※ファンドの基準価額への反映を考慮し、作成期間を1営業日前にずらして作成しております。

が進む展開となりました。しかし、リスク資産が大幅な調整を続けるなかで、投資家のリスク回避姿勢が極端に強まり、価格変動のある資産からの資金流出が拡大するとともに、現金としての米ドル需要が高まったことから、3月中旬以降は米ドル高圧力が強まり、下旬には1米ドル=111円台まで円安に振れる推移となりました。その後3月末にかけては、各国中央銀行の積極的な流動性供給を受けて米ドル需要が落ち着いたことから再び円高に振れ、4月以降は米国経済の早期正常化への期待と新型コロナウイルス感染第2波への警戒、日本の貿易収支の悪化と底堅い対外直接投資、安定的な日米金利の推移等、円安／円高の双方の材料が交錯するとともに、金融政策動向からの材料が徐々に落ち着くなか、方向感に乏しいレンジ相場となりました。

●国内短期金融市況

当作成期間は、日本銀行による大規模な量的金融緩和が継続するなか、日本の短期金利は引き続き低位で推移しました。短期金利の代表的な指標の一つである国庫短期証券(3ヵ月物)金利は、期初の△0.16%近辺から期を通じてマイナスで推移し、△0.12%前後で期末を迎えました。

6 当ファンドのポートフォリオ

当ファンド

追加設定・解約による資金フローを鑑みながら、主要投資対象である外国投資信託のパフォーマンスを享受すべく、当該外国投資信託の組入比率を高位に維持する運用を行いました。また、投資信託財産の一部を、親投資信託である「楽天・国内マネー・マザーファンド」の受益証券に投資しました。

外国投資信託

担保付スワップを通して、以下の取引を行った場合に得られる投資成果を享受する運用を行いました。

- ① ダウ・ジョーンズ米国不動産指数を対象としたiシェアーズ米国不動産ETFへの投資
- ② 当該ETFに係るコール・オプションの定期的な売却
- ③ 円売り／ブラジル・リアル買いの1ヵ月物外国為替先渡取引
- ④ 円に対する米ドルのコール・オプションの定期的な売却

楽天・国内マネー・マザーファンド

主に、国庫短期証券や高格付CPを対象にした現先取引による運用を行いました。

7 当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

8 分配金

分配金額は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益および売買益(評価損益を含みます。)等の全額を分配対象額とし、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定しました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、投資信託財産内に留保し、運用の基本方針にもとづいて運用いたします。

(1万口当たり・税込)

項 目	第48期	第49期	第50期	第51期	第52期	第53期
	2019年12月18日～ 2020年1月17日	2020年1月18日～ 2020年2月17日	2020年2月18日～ 2020年3月17日	2020年3月18日～ 2020年4月17日	2020年4月18日～ 2020年5月18日	2020年5月19日～ 2020年6月17日
当期分配金 (円)	70	70	40	40	40	40
(対基準価額比率) (%)	(1.705)	(1.763)	(1.867)	(1.720)	(2.002)	(1.703)
当期の収益 (円)	70	70	40	40	40	40
当期の収益以外 (円)	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額 (円)	1,829	1,884	1,955	1,984	2,013	2,052

(注1)「対基準価額比率」は「当期分配金」の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2)「当期の収益」は経費控除後の配当等収益および経費控除後の有価証券売買等損益、「当期の収益以外」は収益調整金および分配準備積立金です。

(注3)「当期の収益」および「当期の収益以外」は、円未満を切捨てて表示しているため、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

今後の運用方針

当ファンド

引き続き、外国投資信託と楽天・国内マネー・マザーファンドを投資対象とし、外国投資信託への投資割合を高位に維持することを目指します。

外国投資信託

引き続き、担保付スワップを通して以下の取引を行った場合に得られる投資成果を享受することを目指します。

- ① ダウ・ジョーンズ米国不動産指数を対象としたiシェアーズ米国不動産ETFへの投資
- ② 当該ETFに係るコール・オプションの定期的な売却
- ③ 円売り/ブラジル・リアル買いの1ヵ月物外国為替先渡取引
- ④ 円に対する米ドルのコール・オプションの定期的な売却

楽天・国内マネー・マザーファンド

資産の保全と流動性に留意しながら、国庫短期証券や高格付CPを対象にした現先取引、コール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を目指します。

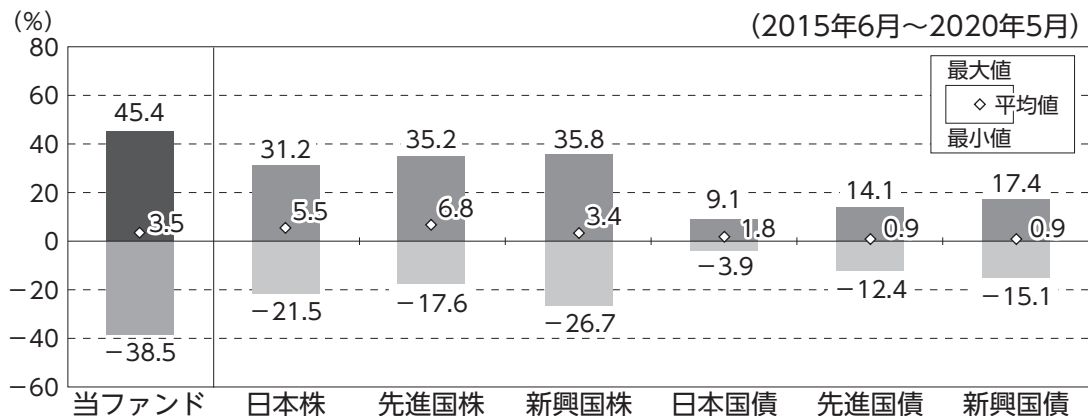
お知らせ

該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／不動産投信
信託期間	2016年1月7日から2026年1月16日まで
運用方針	安定した収益の確保と投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	<p>①主にケイマン籍円建て外国投資信託への投資を通じて、米国リートに実質的に投資するとともに、米国リーートのコール・オプションの売却および円に対する米ドルのコール・オプションの売却によってオプション・プレミアム収入を獲得する2つのカバード・コール戦略による運用を実質的に行います。また、円売り／ブラジル・レアル買いの為替取引(ブラジル・レアル戦略)を行うことにより、円とブラジル・レアルの金利差相当分の収益と対円でのブラジル・レアルのパフォーマンスの獲得を目指します。なお、投資信託財産の一部を、親投資信託である「楽天・国内マネー・マザーファンド」の受益証券に投資します。</p> <p>②投資信託証券への投資割合は、原則として高位を維持することを基本とします。</p>
分配方針	<p>分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益および売買益(評価損益を含みます。)等の全額とします。</p> <p>収益分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。</p> <p>収益分配に充てなかった留保益の運用については特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。</p>

ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注1)当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるよう、上記5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したもので、決算日に対応した数値とは異なります。なお、当ファンドの騰落率は、設定日以降で算出可能な期間のみであり、代表的な資産クラスの対象期間と異なります。

当ファンドの対象期間：2017年1月～2020年5月

代表的な資産クラスの対象期間：2015年6月～2020年5月

(注2)当ファンドの年間騰落率は、分配金再投資基準価額に基づいて計算した騰落率であり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

(注3)すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの騰落率は以下の各指数の騰落率です。

日本株：S&P日本総合指数(トータル・リターン、円ベース)

先進国株：S&P先進国総合指数(除く日本、トータル・リターン、円換算ベース)

新興国株：S&P新興国総合指数(トータル・リターン、円換算ベース)

日本国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル国債：日本インデックス (円ベース)

先進国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル国債 (日本除く) インデックス (円ベース)

新興国債：ブルームバーグ・バークレイズ新興市場本国通貨建て高流動性国債 インデックス (円ベース)

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※上記各指数に関する知的財産権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

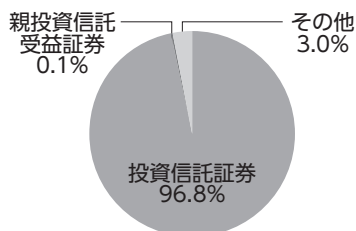
当ファンドのデータ

1 当ファンドの組入資産の内容

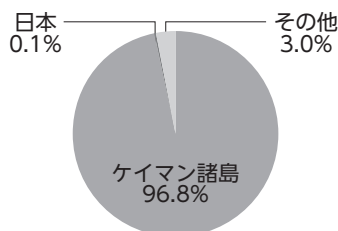
■組入ファンド

	当作成期末
クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-USリート・トリプルエンジン・プラス・ファンド(適格機関投資家専用)(ブラジル・リアル・クラス)	96.8%
楽天・国内マネー・マザーファンド	0.1%
その他	3.0%
組入ファンド数	2

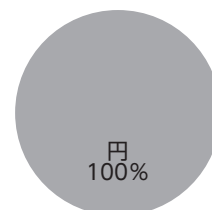
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
 (注2)国別配分につきましては発行国を表示しております。

2 純資産等

項 目	第48期末	第49期末	第50期末	第51期末	第52期末	第53期末
	2020年1月17日	2020年2月17日	2020年3月17日	2020年4月17日	2020年5月18日	2020年6月17日
純資産総額	3,573,235,864円	3,454,549,598円	1,836,436,070円	1,924,067,606円	1,642,328,751円	1,952,106,247円
受益権総口数	8,855,465,662口	8,856,150,588口	8,735,145,342口	8,416,796,614口	8,388,559,486口	8,455,340,818口
1万口当たり基準価額	4,035円	3,901円	2,102円	2,286円	1,958円	2,309円

※期中における追加設定元本額は1,150,619,014円、同解約元本額は1,811,088,693円です。

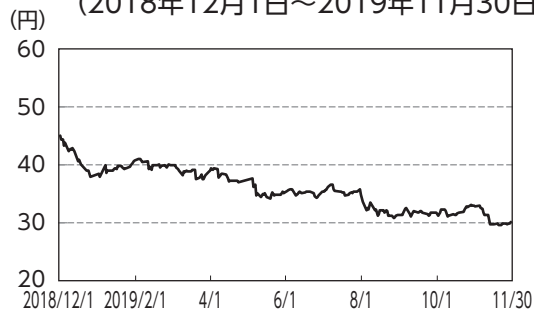
3 組入ファンドの概要

クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-USリート・トリプルエンジン・プラス・ファンド(適格機関投資家専用)(ブラジル・リアル・クラス)

運用経過等に関する詳細な情報につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

■基準価額の推移

(2018年12月1日～2019年11月30日)



■1万口当たりの費用明細

当該情報が取得できないため記載しておりません。

■組入上位10銘柄

(2019年11月30日現在)

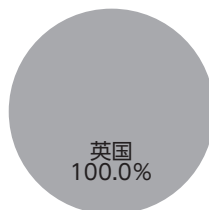
	銘柄名	国/地域	比率 %
1	Options trading linked to US REIT index and USD/JPY and BRL/JPY foreign exchange rate overlays	英国	100.0
2	—	—	—
3	—	—	—
4	—	—	—
5	—	—	—
6	—	—	—
7	—	—	—
8	—	—	—
9	—	—	—
10	—	—	—
組入銘柄数		1	

(注)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

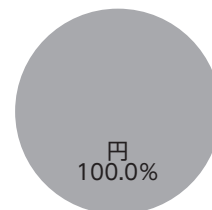
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2)スワップ取引および各配分はクレディ・スイス・マネジメント(ケイマン)リミテッドより入手した情報を基に作成しております。

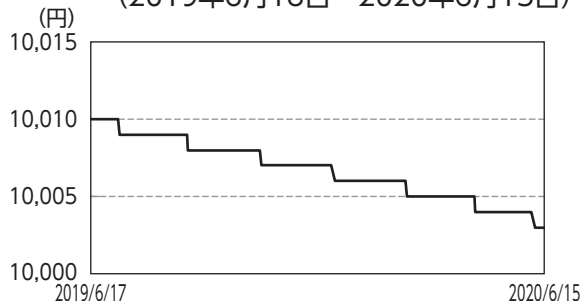
3 組入ファンドの概要

楽天・国内マネー・マザーファンド

運用経過等に関する詳細な情報につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

■基準価額の推移

(2019年6月18日～2020年6月15日)



■1万口当たりの費用明細

(2019年6月18日～2020年6月15日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (その他)	0円 (0)	0.003% (0.003)
合計	0	0.003

期中の平均基準価額は10,006円です。

(注)費用項目については3ページ(1万口当たりの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

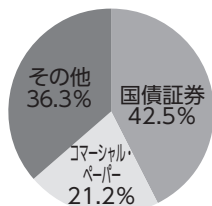
■組入上位10銘柄

(2020年6月15日現在)

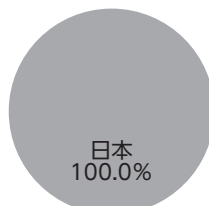
	銘柄名	発行国	比率 %
1	第914回国庫短期証券	日本	42.5
2	イオンプロダクト0DZB	日本	21.2
3	—	—	—
4	—	—	—
5	—	—	—
6	—	—	—
7	—	—	—
8	—	—	—
9	—	—	—
10	—	—	—
組入銘柄数		2	

(注)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

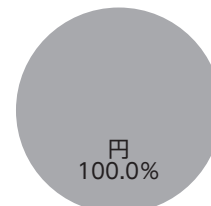
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1)組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2)国別配分につきましては発行国を表示しております。